

目次

はじめに 豊かなリタイアメント・ステージを送るために	I
第1章 リタイアメントとお金	5
(1) 退職後の生活コストと1億円の衝撃	7
(2) 必要な自己資金と課題	II
第2章 リタイアメント・ステージで直面する3つのリスクと資産運用	17
(1) リスク1…年金制度のリスク	19
(2) リスク2…インフレのリスク	22
(3) リスク3…長寿のリスク	26
(4) リスクヘッジとしての資産運用と資産運用のリスク	29
第3章 リタイアメント・ステージにおける資産運用のキーポイント	31
(1) 「山下り」の資産運用とリスクの取り方	32

(2)	インカムリターンの重要性	34
(3)	インフレと資産価値の保全	39
(4)	リスク資産による成長投資	46
(5)	運用コストの影響と低減	49
第4章 資産運用とリスク管理 …………… 53		
(1)	資産価格に影響を与える要因（リスク管理の基礎）	54
(2)	タイミングリスクと時間分散	58
(3)	テールリスクと分散投資	62
(4)	継続的なリスク管理とリバランス	68
第5章 リタイアメント・ポートフォリオの作り方 …………… 73		
(1)	機能ポートフォリオのポートフォリオ	74
(2)	ETFと投資ポートフォリオ	77
(3)	2つの投資サブポートフォリオ	79
(4)	投資家の特性と資産配分	92
(5)	自分に適した資産配分の構築	95

第6章 資産の引出しと資産枯渇リスク…………… 99

(1) 引出し率

(2) 引出し率と資産枯渇リスクの評価

(3) 資産運用パフォーマンスと引出し率

108 101 100

第7章 終^{つひ}の戦略…………… 113

(1) リバース・モーゲージ

(2) 終身年金保険(アニユイティ)

119 115

第8章 非合理的な意思決定をしないために…………… 123

(1) 人間心理の非合理性

(2) 投資行動に表れる人間心理

(3) 非合理的な意思決定を下さないために

129 126 124

あとがき — 資産運用大国への道…………… 131

役に立つ情報源

参考文献

索引

1 5 6

はじめに

豊かなリタイアメント・ステージを送るために

リタイアメント・マネジメントとは、退職後の人生（リタイアメント・ステージ）を豊かに過ごすための資産運用の考え方である。現役時代の資産形成を想定しているこれまでの資産運用とは一線を画す考え方と言える。リタイアメント・ステージには現役時代と大きく異なることが一つある。それは、支出が収入を上回るということ、そしてその結果、蓄積した資産が減って行くということである。つまり、山を下るということになる。ところが何をやるにしてもお金が必要である。退職したあなたにはこれまでのような安定した収入がない。年金はあるものの、それですべてを賄うことができるわけではない。そもそも年金制度自体が今後どうなるか分からない。一方、あなたがお金持ちでなければ貯蓄はリタイアメント・ステージのために十二分にあるというわけでもない。現役時代に蓄えた資産を元にもうまくやりくりして行かねばならない。つまり、資産運用が必要なのである。しかもリタイアメント・ステージに適した資産運用手法が必要になる。リタイアメント・マネジメントとはリタイアメント・ステージのための資産運用のことである。

さて、資産運用というと、株のようなリスクのあることはやりたくない、と考える人もいるかもしれない。確かに、株式は上がったたり下がったりする。しかもその予測は極めて難しいものである。しかし、それでも資産運用は必要なのである。それは、何もしないということにもリスクがあるからである。資産運用をしなくて正解であると言えるのは、デフレが続く場合だけである。デフレは物の価値が下がる、逆に言えば、お金の価値が上がるということを意味する。デフレ期には現金を

持っているのが一番良い。言い換えれば、今後も資産運用をせずに現金のまま保有しているということは、デフレが今後も続くということに賭けていることになる。もし当面デフレが続くと考えるのであれば、何もせず、現金を保有しておいたら良いだろう。しかし、デフレ時代も終わると考えるのであれば、資産運用をしないことは大きなリスクを取るようになる。

日本では高齢化が急速に進んでいる。年金でもらえる金額が下がるのではないかという不安もある。ますます自助努力が要求されるようになる。退職者層が適切な資産運用を怠れば、税金で支えるということにもなりかねない。厚労省の調査（2013年8月発表）によれば、生活保護を受けている世帯は2013年5月時点で150万世帯を超え、過去最高を記録した。中でも高齢者世帯が71万世帯と最も多い。当たり前だが歳を取ってから最後の付けが回ってくるのである。自らの生活は自らの資産運用によって守らなければならない。

適切な資産運用を行うことは自分のためだけでなく、日本経済にも貢献することができる。リスク資産に対する適切な投資は日本経済を活性化させ、若者にも雇用が生まれてくるのである。退職した後でも適切な資産運用を通して日本経済に大きな貢献ができるということだ。しかも、日本では2014年からNISA（ニーサ・日本版ISA）と呼ばれる少額投資非課税制度がスタートする。これまで資産運用に縁遠かった人にとっても資産運用を開始する絶好のタイミングである。

本書は、これから退職を迎える人、ちょうど退職を迎えようとしている人、すでに退職している

人、そして、まだ若い将来に備えたいと考えている人のためのリタイアメント・マネジメントに関する入門書である。リタイアメント・ステージにおける資産運用の考え方や具体的な方法論についてできるだけ分かりやすく解説したつもりである。読者が本書によって豊かなリタイアメント・ステージを送り、その結果として、超高齢化を迎える日本が活気ある国であり続けることを願っている。

2013年12月吉日

加藤康之